

# NSG

GROUP



# NSG グループ

## 2016年3月期第2四半期決算報告

(2015年4月1日～2015年9月30日)

日本板硝子株式会社  
2015年10月29日

**森 重樹**

代表執行役社長兼CEO

**クレメンス・ミラー**

代表執行役副社長兼COO

**マーク・ライオンズ**

代表執行役副社長兼CFO

**諸岡 賢一**

執行役副社長

<森CEO>

NSGグループ・2016年3月期第2四半期決算説明会に参加いただき、ありがとうございます。NSGグループ・CEOの森重樹です。

本日の説明会には、COOのクレメンス・ミラー、CFOのマーク・ライオンズ、そして執行役副社長の諸岡賢一が同席しており、私と一緒に、この説明会を進めさせていただきます。

アジェンダ

要点  
決算概要  
事業状況  
業績予想・まとめ

<森CEO>

4ページは、本日のアジェンダとなります。

まず、私の方から今回の決算のポイントについて説明を行います。

次に、マークから財務業績について説明を行います。

その後、クレメンスが地域毎に事業業績の説明を行い、最後に私の方から2016年3月期の業績見通しについて説明を行います。

## 要点：2015年4月－2015年9月



- 無形資産償却前営業利益は前年同期と同様の水準
- 欧州では改善の兆しが見られる
- 日本の業績は改善
- 北米と東南アジアは、好調を持続
- 南米は市場状況が低調に推移
- ディ스플레이は引き続き厳しい市場環境の影響を受ける

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

5

### <森CEO>

5ページは、この四半期決算のポイントとなります。

無形資産償却前営業利益は、前年同期と同様の水準となりました。

欧州では、当社の建築用ガラス事業と自動車ガラス事業のいずれにおいても見られるように、緩やかな改善の兆しが見られます。

日本の業績は改善しています。

北米と東南アジアでは、引き続き好調な業績が持続しています。

南米は低調な経済状況の影響を受けています。

ディスプレイは厳しい市場環境の影響を受けています。

それでは、ここでマークによる財務業績の説明に移ります。

**2016年3月期第2四半期決算報告**  
(2015年4月1日～2015年9月30日)



**アジェンダ**

要点

決算概要

事業状況

業績予想・まとめ

## 連結損益計算書



(億円)	16年3月期 4月-9月期	15年3月期 4月-9月期
売上高	3,217	3,095
無形資産償却前営業利益	101	103
償却費*	(40)	(42)
営業利益	61	61
個別開示項目	(15)	132
金融費用(純額)	(88)	(88)
持分法による投資利益/(損失)	(5)	4
税引前利益/(損失)	(47)	109
当期利益/(損失)	(16)	83
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	(27)	79
EBITDA	271	263

\* ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

改善している地域と低調な地域が混在

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

7

### <マーク・ライオンズ>

森さん、ありがとうございます。それでは、7ページに移ります。ここでは、損益計算書をご覧ください。

売上高は3,217億円となり、前年比4%の増加となりました。為替変動の影響を除くと、前年同期と同様の水準です。

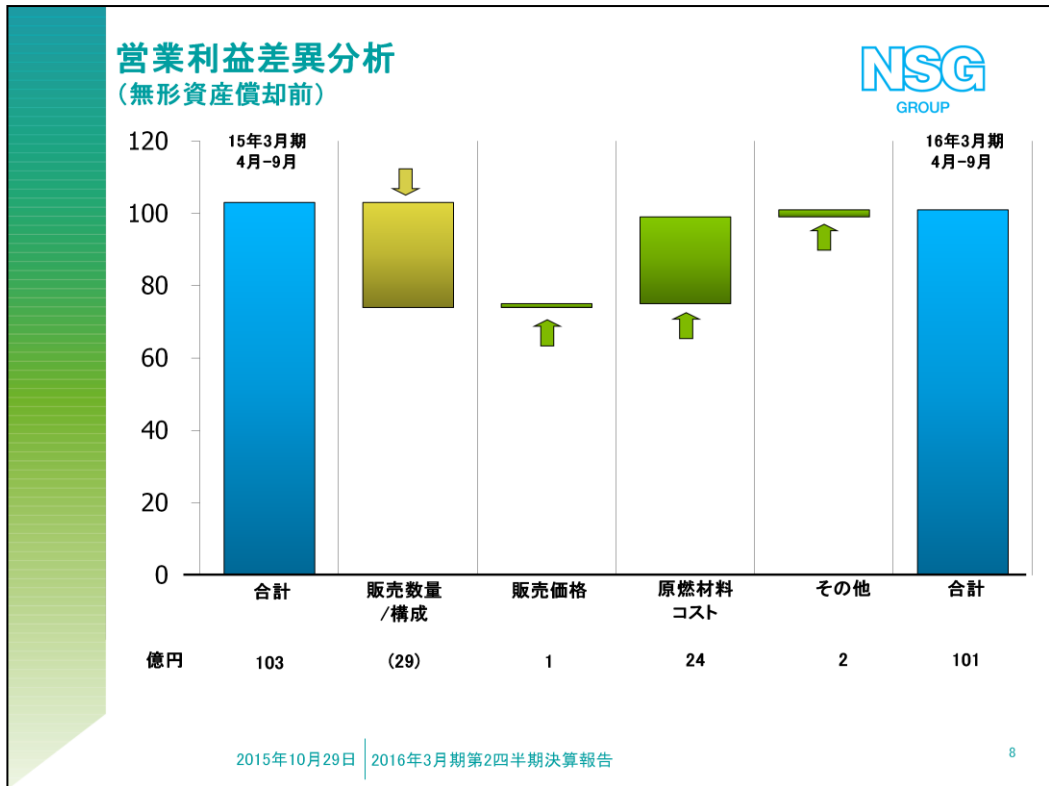
無形資産償却前営業利益は、前年同期と同水準です。これは市場状況が改善している地域と低調な地域が混在している状況を反映しています。

個別開示項目では、リストラクチャリング費用等により、15億円の損失を計上しています。前期では、一過性の投資の分類変更による評価益を計上しています。

金融費用は前年同期と同様の水準です。

持分法による投資損失は、主に中国における厳しい市場環境の影響を受け、前年同期と比べて悪化しています。

EBITDAは若干改善しました。



### <マーク・ライオンズ>

8ページでは、個別開示項目前営業利益について、前年同期との差異について説明をしています。

「販売数量/構成」ですが、厳しい事業環境の影響を受けたディスプレイ事業の売上高の減少を反映しています。

「販売価格」はディスプレイ事業では下がっていますが、他でその影響を打ち消しています。

「投入コスト」では、エネルギーコストが下がりましたが、原材料費の上昇がその効果の一部を相殺しています。



## 連結キャッシュ・フロー



(億円)	16年3月期 4月-6月期	16年3月期 7月-9月期	16年3月期 4月-9月期
当期損失	(5)	(11)	(16)
減価償却費	106	104	210
運転資本の増減	(149)	39	(110)
利息支払額(純額)	(21)	(65)	(86)
法人所得税支払額	(12)	(6)	(18)
その他	(34)	24	(10)
営業活動によるキャッシュ・フロー	(115)	85	(30)
固定資産の取得	(86)	(84)	(170)
その他	(3)	(2)	(5)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(89)	(86)	(175)
フリー・キャッシュ・フロー	(204)	(1)	(205)

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

9

### <マーク・ライオンズ>

9ページでは、キャッシュ・フローをご確認いただけます。

上半期のフリー・キャッシュ・フローは、205億円のマイナスとなりました。

四半期毎に見ると、第2四半期のキャッシュ・フローは第1四半期に比べて改善していることがわかります。これは主に第2四半期における運転資本の減少によるものです。

下半期でキャッシュ・フローが改善することを見込んでおります。

## 主要財務指標 (KPI)



	<u>2015年9月末</u>	<u>2015年3月末</u>
ネット借入(億円)	3,985	3,741
ネット借入/EBITDA	6.8x	6.5x
ネット借入/純資産比率	2.2	2.0
	<u>2016年3月期</u> <u>4月-9月期</u>	<u>2015年3月期</u> <u>4月-9月期</u>
EBITDA/インタレスト・カバレッジ	3.4x	3.4x
営業利益率*	3.2%	3.3%

\* 無形資産償却前営業利益

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

10

### <マーク・ライオンズ>

10ページですが、主要財務指標となります。

「ネット借入」は、第1四半期における運転資本の季節的な変動により増加しましたが、負債に関連する財務指標は安定的に推移しました。

スライドの下部に表示しております、損益に係る財務指標は前年同期と同様の水準となりました。

それでは、ここからクレメンスが各事業と地域の業績について説明いたします。

**2016年3月期第2四半期決算報告**  
(2015年4月1日～2015年9月30日)



**アジェンダ**

要点

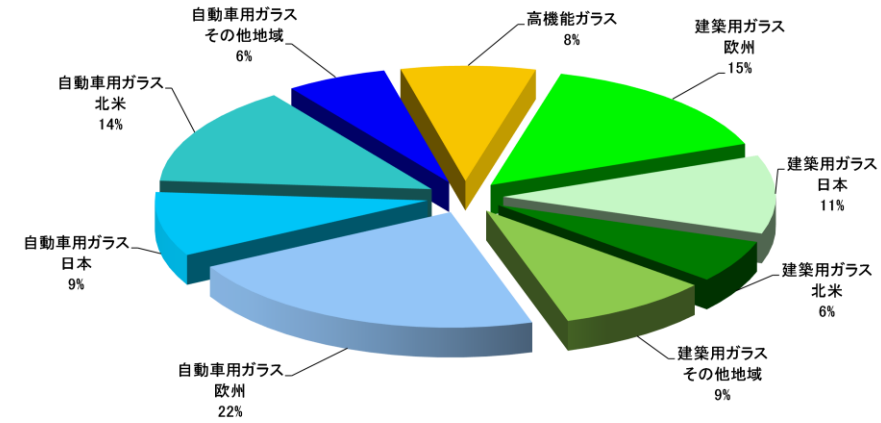
決算概要

事業状況

業績予想・まとめ

## 事業別売上高

3,217億円



2016年3月期  
(2015年4月-9月)

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

12

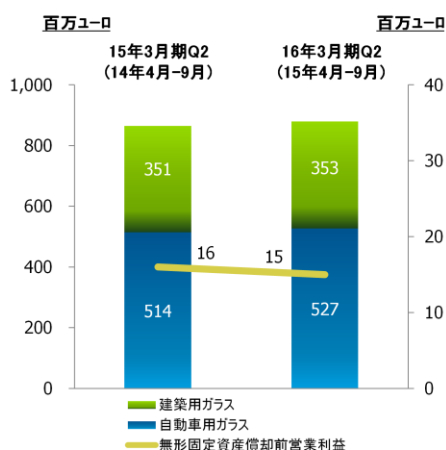
### <クレメンス・ミラー>

マーク、ありがとうございます。12ページへ移りましょう。

このスライドは、当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

当社グループの売上高の構成比ですが、欧州が38%、日本が23%、北米で21%、その他の地域で18%、となっています。

## 欧州 2015年3月期第2四半期との比較



### 建築用ガラス事業

- フロート窯の定修による影響が投入コストの削減効果を相殺
- 一部の地域で市場状況に改善の兆し

### 自動車用ガラス事業

- 現地通貨ベースの売上は前年同期から改善
- 西欧において市場回復の兆候が見られる

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

13

## <クレメンス・ミラー>

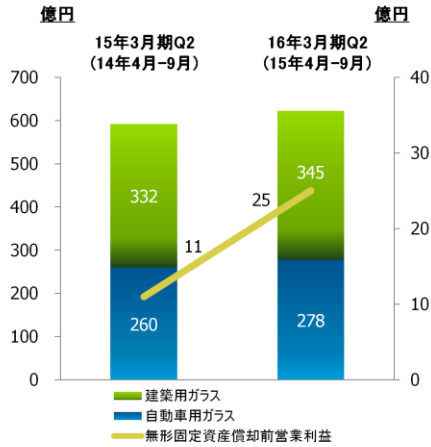
13ページへ移ります。ここでは欧州における当社グループの建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業の業績についてご覧いただけます。

欧州の建築用ガラス市場は、安定的に推移しました。

当社の利益は、主にエネルギー関連の投入コストの減少があったものの、ポーランドの窯の定修の影響により減少しました。市場では改善の兆しが見えています。

自動車用ガラス市場では、乗用車販売台数が増加しており、市場回復の兆しが見えてきました。

日本  
2015年3月期第2四半期との比較



**建築用ガラス事業**

- 市場では本格的な価格上昇が見られないなか、数量と価格の改善により増収増益

**自動車用ガラス事業**

- エコ・カー減税制度の改訂により乗用車販売台数が減少しているなか、増収増益

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

14

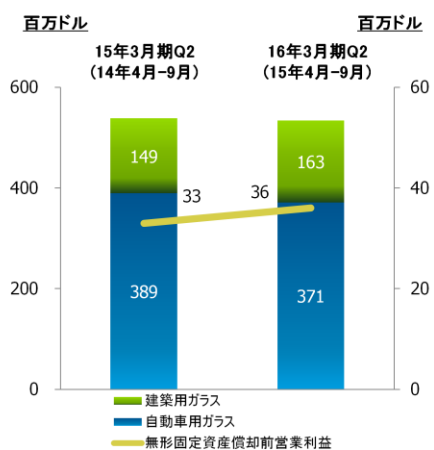
<クレメンス・ミラー>

14ページへ移ります。ここでは日本における当社グループの建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業の業績についてご覧いただけます。

建築用ガラス事業は、消費増税の影響を受けた前年同期より数量が増加し、増収増益となりました。ここでは、エコポイント制度による好影響を享受しています。

自動車用ガラス事業は、エコ・カー減税制度の改訂により乗用車販売台数が減少するなど、市場が弱含みのなか、増収増益となりました。

## 北米 2015年3月期第2四半期との比較



### 建築用ガラス事業

- 建築用ガラス市場の好調の継続により、増収増益

### 自動車用ガラス事業

- 売上は前年同期を下回る

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

15

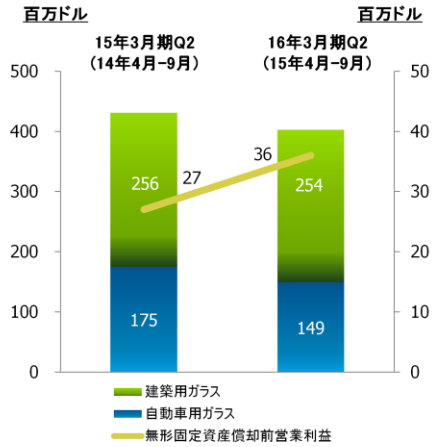
## <クレメンス・ミラー>

15ページへ移ります。ここでは北米における当社グループの建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業の業績についてご覧いただけます。

建築用ガラス事業は、市場の好調の継続により、増収増益となりました。

自動車用ガラス事業の売上は、前年同期を少し下回りました。

## その他地域 2015年3月期第2四半期との比較



### 建築用ガラス事業

- 東南アジアは、堅調な需要により好調を維持
- アルゼンチンは、フロート窯の定修の影響により減益

### 自動車用ガラス事業

- 南米の市場は低調に推移

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

16

<クレメンス・ミラー>

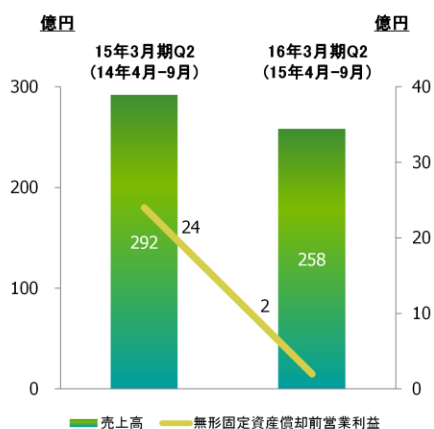
16ページへ移ります。

建築用ガラス事業では、東南アジアが好調な需要による影響を享受しました。一方、南米はアルゼンチンの窯の定修の影響により減益となりました。

南米の自動車用ガラス市場では、乗用車販売台数が前年から大きく落ち込むなど、引き続き厳しい経済状況の影響を受け、低調に推移しています。



## 高機能ガラス事業 2015年3月期第2四半期との比較



### 高機能ガラス事業

- ディスプレイ用薄板ガラスは厳しい市場環境と生産不調の影響を受け、減収減益
- オフィス向けプリンター用レンズの需要は堅調
- グラスコードは前年同期並みの数量

### <クレメンス・ミラー>

17ページの高機能ガラス事業へ移ります。

高機能ガラス事業の利益は、ディスプレイが厳しい市場環境の影響を受けたことにより減益となりました。

オフィス向けプリンター用レンズの堅調な需要は持続しており、グラスコードの数量は前年と同様の水準で推移しました。

それでは、森さんへ代わります。

**2016年3月期第2四半期決算報告**  
(2015年4月1日～2015年9月30日)



アジェンダ

- 要点
- 決算概要
- 事業状況
- 業績予想・まとめ

## 2016年3月期連結業績予想



(億円)	2016年 3月期 当初見通し	2016年 3月期 見通し (修正後)	差異
売上高	6,550	6,500	(50)
営業利益	240	190	(50)

- ディスプレイ事業を取り巻く厳しい市場環境は継続する見込み
- ディスプレイ以外の事業の業績は、想定通りに推移

2015年10月29日 | 2016年3月期第2四半期決算報告

19

### <森CEO>

クレメンス、ありがとうございます。19ページへ移ります。ここで、2016年3月期の連結業績予想の説明をさせていただきます。

上期営業利益の実績を踏まえ、2016年3月期通期の売上高と営業利益の見通しを修正しました。

これは、ディスプレイ事業を取り巻く厳しい市場環境の影響を織り込んだものとなっています。

これ以外の損益計算書の項目の見通しについては、個別開示項目等の見通しに不確定要素があり、見通しが判明次第、速やかにお知らせいたします。

- 無形資産償却前営業利益は前年同期と同様の水準
- 欧州では改善の兆しが見られる
- 日本の業績は改善
- 北米と東南アジアは、好調を持続
- 南米は市場状況が低調に推移
- ディ스플레이事業を取り巻く厳しい市場環境を織り込み、2016年3月期の売上高と営業利益の見直しを変更

<森CEO>

20ページへ移ります。この四半期決算のまとめですが、

無形資産償却前営業利益は、前年同期と同様の水準となりました。

欧州では、当社の建築用ガラス事業と自動車ガラス事業のいずれにおいても見られるように、緩やかな改善の兆しが見られます。

日本の業績は改善しています。

北米と東南アジアでは、引き続き好調な業績が持続しています。

南米は低調な経済状況の影響を受けています。

ディスプレイ事業を取り巻く厳しい市場環境の影響を織り込み、2016年3月期の売上高と営業利益の見直しを変更しております。

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社

補足資料

## 事業部門別・地域別売上高 (2015年4月1日～2015年9月30日)



(億円)	欧州	日本	北米	その他 地域	合計
建築用ガラス	477	345	199	310	1,331
自動車用ガラス	712	278	453	181	1,624
高機能ガラス	41	114	6	97	258
その他	1	3	0	0	4
合計	1,231	740	658	588	3,217

**償却前営業利益\***  
(2015年4月1日～2015年9月30日)



(億円)	建築用ガラス	自動車用ガラス	高機能ガラス	その他	合計
営業利益*	91	41	2	(33)	101

(億円)	欧州	日本	北米	その他地域	合計
営業利益*	21	1	42	37	101

\*: 無形資産償却前営業利益



## 為替レート



	2015年3月期 4月-9月期	2016年3月期 4月-9月期
期中平均為替レート:		
円/英ポンド	173	188
円/ユーロ	140	135
円/米ドル	103	122
期末為替レート:		
円/英ポンド	178	182
円/ユーロ	139	135
円/米ドル	109	121

# NSG

GROUP